

2008 年度 経営計画の概要

2008年4月

北海道電力株式会社

はじめに

原油をはじめとする燃料価格の高騰や地球温暖化問題など、ほくでんグループを取り巻く経営環境が大きく変化する中、今後3年間の事業運営の方向性を示すものとして、「信頼の回復」「電気事業の基盤整備と費用低減」「お客さまからの選択の獲得」「地域・社会との共生」を目指した新たな「中期経営方針（2008～2010年度）」を策定いたしました。2008年度は、その初年度として、取り組みを進めてまいります。

一昨年の12月以降に判明した発電設備に係る不正な運用やデータ改ざんなどにより、地域の皆さまをはじめ広く社会の皆さまの信頼を大きく損ない、多大なご迷惑をおかけしましたことを深くお詫び申し上げます。

2008年度の収支につきましては、原油・海外炭価格が高騰していることに加え、4月に明らかとなった泊発電所2号機の蒸気発生器1次冷却材入口管台溶接部の応力腐食割れの影響などもあり、極めて厳しいものとなる見通しです。

このため、確固たる経営基盤を築くことが何よりも重要であるとの認識から、2008年度は特に「信頼の回復に向けた取り組みの強化」と「安定供給の確保と費用低減に向けた取り組みの推進」にしっかりと取り組んでまいります。

とりわけ、燃料費の抑制やCO₂削減に効果のある原子力発電について、泊発電所1・2号機の的確な点検・補修を行うなど安全・着実な運転に努めるとともに、3号機について、2009年12月の営業運転開始を目指し建設工事を進めてまいります。

また、費用低減に向けた取り組みを強力に進めてまいります。安定供給の維持に必要な経年化等の対策については、収支が厳しい中でもしっかりと取り組んでまいります。

本年4月に、泊発電所3号機におけるプルサーマルの実施に向けて、北海道並びに泊村、共和町、岩内町、神恵内村へ事前協議の申し入れを行いました。地域の皆さまをはじめ広く社会の皆さまのご理解を得ながら、着実に取り組んでまいります。

この経営計画等に基づく取り組みを通して、社会から信頼される健全な企業風土の醸成やさらなる事業の発展を目指すとともに、お客さま、地域の皆さま、株主・投資家の皆さまのご期待にお応えしてまいります。今後ともほくでんグループの事業に対し、一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2008年4月

北海道電力株式会社

I. 直面する経営課題克服に向けた重点取り組み事項

○ 信頼の回復に向けた取り組みの強化

一昨年の12月以降に判明した発電設備に係る不正な運用などにより、地域の皆さまをはじめ広く社会の皆さまの信頼を大きく損なったことを真摯に受け止め、グループ一体となって業務品質の確保とコンプライアンスの徹底に向けた取り組みを強化していきます。

- ・ 基本業務の的確な遂行が業務運営のベースにあるとの認識を持ち、基本業務のあり方を今一度チェックし、改善する取り組みを強力に進め、業務品質の確保を図っていきます。
- ・ コンプライアンスに反する行為を「防止」し、「発見」し、「拡大継続させない」との視点に立ち、企業倫理委員会(*)のもと、法令遵守の徹底や企業倫理などに則った公正な事業活動を確実に展開していきます。

(*) 企業倫理委員会：「コンプライアンス（法令・企業倫理遵守）」の徹底やコンプライアンスに反する事案への的確な対応、再発防止に向けた取り組みなど、コンプライアンスにかかわる取り組みを円滑かつ効果的に推進することを目的として設置（2007年3月）

○ 安定供給の確保と費用低減に向けた取り組みの推進

原油をはじめとする燃料価格の高騰、地球温暖化問題など、経営環境が大きく変わる中でも、「低廉で安定的な電気の供給」という、ほくでんグループの変わらぬ使命を果たすために、グループの総力をあげて、安定供給の確保と費用低減に向けた取り組みを強力に進めていきます。

【安定供給の確保に向けた取り組みの推進】

- ・ 泊発電所2号機の蒸気発生器1次冷却材入口管台溶接部の応力腐食割れへの対応を着実に進め、必要な供給力を確保していきます。また、今年の夏に計画している泊発電所1号機の定期検査における対応についても適切に進めていきます。
- ・ 泊発電所3号機、京極発電所の計画通りの導入を目指し、建設工事を着実に実施していきます。

- ・ 原子力発電設備について、改訂された耐震設計審査指針や新潟県中越沖地震から得られる知見に照らした耐震安全性評価を着実に実施し、必要に応じ対策を講じていきます。
- ・ 泊発電所3号機におけるプルサーマル(*)の実施に向け、地域の皆さまをはじめ広く社会の皆さまの理解を得ながら着実に取り組んでいきます。
- ・ 経年化が進んでいる流通設備や発電設備について、優先順位を明確にしながら、的確かつ効率的な保全を実施していきます。
- ・ 世界的な燃料の需給状況や価格などの動向を注視しながら、中長期的な視点に立ち、購入先・契約形態の多様化など燃料の柔軟かつ安定的な調達を進めます。
- ・ グループ一体となった効率的な業務運営体制の整備を進めるとともに、技術継承・人材育成に向けたグループワイドな取り組みを実施していきます。

(*) プルサーマル：原子力発電所で使用したウラン燃料（使用済燃料）から再処理して取り出したプルトニウムとウランなどを混ぜて新しい燃料をつくり、原子力発電所で再利用すること

【費用低減に向けた取り組みの推進】

- ・ ほくでんグループの総力をあげて、設備投資や修繕費、諸経費など支出全般にわたり、ゼロベースから内容を精査し、安定供給の維持を前提に、徹底した費用の低減を図っていきます。
- ・ グループ共同契約の拡大やV E提案制度(*)の活用など、戦略的な資材調達の実施により調達コスト低減に向けた取り組みを進めていきます。
- ・ コストと長期安定性の両面から短期・長期の資金バランスを考え、機動的かつ効率的な資金調達を行っていきます。

(*) V E (Value Engineering) 提案制度：取引先から機能を維持しコスト低減が可能な提案を申し受け、それを積極的に活用していくコストダウン手法

Ⅱ. お客さまからの選択の獲得と

地域・社会との共生に向けた重点取り組み事項

○ お客さまからの選択の獲得に向けた取り組みの強化

省エネルギー・環境性に優れたヒートポンプ機器を積極的に提案していくとともに、ほくでんグループが持つ多様なノウハウを活用し、お客さまに満足いただけるサービスを提供していきます。

- ・ ご家庭用のお客さまには、エコキュートや暖房・給湯一体型ヒートポンプシステムなどを中心とした販売活動を展開していきます。
- ・ 法人のお客さまには、ビル・店舗などへのヒートポンプ式空調・電化厨房を提案するなど、お客さまのニーズにお応えしていきます。
- ・ ほくでん電化サポートセンター(*)では、電化のご相談やアフターサービスの受付など、お客さまの安心・快適な電化ライフをサポートしていきます。

(*) ほくでんサービス(株)内に「ほくでん電化サポートセンター」を設置(24時間、年中無休)

○ 地域・社会との共生に向けた取り組みの推進

地球温暖化問題への対応などの取り組みを推進し、グループワイドな環境経営を積極的に進めるとともに、地域・社会とのコミュニケーションを充実・強化し、社会的な責任を果たしていきます。

【地球温暖化防止に向けた取り組みの推進】

- ・ CO₂削減に向けて、「2008～2012年度平均のCO₂排出原単位(*)を1990年度比で20%程度低減する」ことを目標に、泊発電所1・2号機の安定的な運転、泊発電所3号機の着実な建設、京都メカニズムに基づくCO₂クレジットの獲得など、状況に応じた様々な手段を講じていきます。

(*) CO₂排出原単位：販売電力量1kWh当たりのCO₂排出量

- ・ 省エネルギーへの取り組みなど環境保全活動の着実な実施・充実を図っていきます。
- ・ 地域の森林づくりへの一層の支援を行うため、「ほくでんグループ みどりのサポーター活動(*)」を展開します。

(*) ほくでんグループ みどりのサポーター活動：環境を主要なテーマとする北海道洞爺湖サミットの開催を契機として、地域の森林づくりへの一層の支援を行うこととしました。

- ・「ほっかいどう企業の森林づくり」制度へ参加し、5年間で約10万本の植樹を行います。
- ・施工が簡単で苗木の活着がよいカミネッコンによる植樹を全道の事業所で開始します。

【社会とのコミュニケーションの充実・強化】

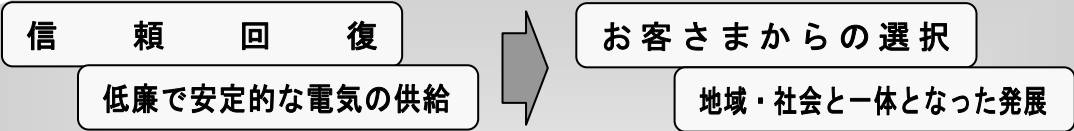
- ・ プルサーマルを含む原子力発電の安全性・必要性やエネルギー・環境問題などについて、適時・適切な広報活動を推進します。
- ・ 対話・ふれあい活動や、インターネットなどを活用した積極的な情報の発受信などにより、地域・社会の皆さまとのコミュニケーションを充実します。
- ・ 2008年7月に開催される北海道洞爺湖サミットに向けて、電力の安定供給に万全を期すとともに、「ほくでんこども環境クエスト(*)」の開催などの協賛・応援事業を行います。

(*) ほくでんこども環境クエスト：子どもたちが、北海道洞爺湖サミットの主要テーマである「環境」、ほくでんグループの事業である「エネルギー」、子どもたちが連想する未来の「科学技術」に関する体験をし話し合う場として、「ほくでんこども環境クエスト」を開催することとしました。

中期経営方針（2008～2010 年度）の概要

- 発電設備の不正な運用などにより大きく損なわれた信頼
- 地球温暖化などの環境問題
- 原油価格などの資源エネルギー価格の高騰

2008—2010
地域・社会からの信頼の回復に努めるとともに、泊発電所3号機の計画通りの導入など、電気事業の基盤を強固にする



【重点取り組み事項】

課題2. 電気事業の基盤整備と費用低減に向けた取り組みの推進

- ・ バランスのとれた電源構成を構築するとともに、設備経年化に的確に対応し、安定供給の維持に努めていきます。
- ・ グループ一体となった人材育成・技術継承方を推進していきます。
- ・ グループ一体となって、効率化を更に推し進めていきます。

課題3. お客さまからの選択の獲得に向けた取り組みの強化

- ・ 省エネルギー・環境性に優れたヒートポンプ機器を積極的に提案していくなど、お客さまニーズにお応えする活動を展開していきます。
- ・ 電化のご相談やアフターサービスの受付など、お客さまの安心・快適な電化ライフをサポートしていきます。

課題4. 地域・社会との共生に向けた取り組みの推進

- ・ 自主行動計画で掲げる「CO₂排出原単位目標」達成に向けて状況に応じた様々な手段を講じていきます。
- ・ 省エネルギーの推進など環境への取り組みの着実な実施・充実を図っていきます。
- ・ 社会とのコミュニケーションを充実・強化していきます。

課題1. 信頼の回復に向けた取り組みの強化

- ・ 一昨年の12月以降に判明した発電設備に係る不正な運用などにより、地域の皆さまをはじめ広く社会の皆さまの信頼を大きく損なったことを真摯に受け止め、グループ一体となって、業務品質の確保とコンプライアンスの徹底に向けた取り組みを強化していきます。

ともに輝く明日のために。
Light up your future.

ほくてんグループ

北海道電力株式会社
〒060-8677 札幌市中央区大通東1丁目2番地
TEL (011) 251-1111

ホームページ <http://www.hepco.co.jp>

